

人生は基のようなものだ

李 逸

碁を打つことは日本で娯楽の一つであり、技を競うものの一つと見られます。人々にはかなり好かれています。私から見れば、碁は私達の人生と似ているものがあります。女性なら、碁にも私達の人生にも一定のレベルが存在し、従うべきところがあるからでしょう。一局の碁には三つの段階があります。初盤、中盤と終局です。我々の人生にも碁と同じように三つの段階があるのではいでしょうか。それは、青年期、中年期と晩年期のことです。人生と碁は全く別なものだといえ、その中に存在している道理が同じです。人生はまことに碁のようないです。碁はいつも同じ形勢になりません。一方で、人生もいつも変わらないうわけではありません。

見事な一局を打ちたいとしたら、初盤は大事です。この始めの頃の手は碁の戦いの準備になり、局面の流れに自分の方へ引く張る

かです。そうすれば布石の考えが必要となり
見通すことは最も肝心なことです。目の前の
利益に誘われ、焦って求めに行くのなら、周
りの物事が見えなくなってしまうのです。右
者たちはこのよくなりに気を付けるべきで
す。自分の目標を確立して、知識を蓄え、進
んだほうがよいです。この段階で、自分をコ
ントロールすることを身につけ、どう周囲か
らの誘惑に対応するのかがポイントです。
中盤に進むと、対局の一番対抗が激しいと
ころを迎えます。当然ながら、勝負はここ
で付きます。大きな局面の流れから小とな
り手まじりまじり考えることが必要です。一
手は多くの選択肢に向かうので、この手の
先の何手、更に何手も思いつかなければな
りません。敵を滅ぼしながら、自分の身を守
らなければなりません。人生も中年になった
ら人より先に一歩を踏み出し、一歩先をリ
ードして走ることも、お互いに騙し合う、殺し
合う環境の中で自分を守ることも習得すべし

です。もしも、人の道を踏み外したら、どんなに高い権力、財力を持つていっても、水の泡に過ぎず。もしも、二度と来ない子や、スミを逃してしまったり、どんなに強い志があっても、嘆くにしかたがありません。我々の人生は選択肢が多すぎても、交差点のようです。明るく未来が来るのか、中年の勤の鏡と根性次第です。

激戦の後、終局に入ります。この時に勝負は既に決まっています。局面が有利に進んでいかなら、平穩に形勢を勝利に導くわけです。不利な局面に落ちたら、諦めずに思い切った自分自身を賭け、決着をつけるべきです。

対局中にけつして少しの土地を失ってはいけません。時々全局のため、二、三をとりあえず、我慢して譲らなくともなりません。一歩一歩のコマは自分の役割、自分の位置がありまします。正しくそれを見つけて出し、正しいと認まされて彼らと行つてや、と云、

勝負をつける鍵になるのです。

人生は墓のようなのです。私達はコ

マとハッてもハッのです。慎重に考えたとど、

歩き出します。歩調が遅くても、向き変える

ことなく、前に進んでいきます。人生は墓の

ようなものだといっても、墓ほど厳しくあり

ません。しかしながら、誰もがずっと墓で勝

ち続けることは不可能なことで同じく、人生の

中でも生まれながらの勝者はいません。私達

は社会の中に存在してハいます。違うキヤウク

ク一を演出してハいます。逆境に陥つても、決

して悲観的に降参するべきではなく、運命に

任せるべきではなく、堅固な意志と積極的な

態度を持ち、有利な環境を自ら創るよくな

信念を持ち、悪くてものをすべて切り開いて

ハくべきです。

墓に勝ち、人生に勝つをモットーにがんば

ります。